

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>② 文字を書く</p> <p>一、漢字を正しく書く</p> <p>4問とも、ほぼ60%台の正答率で難易度に差はない。そのうちでも「納める」は比較的好くない。(59%)</p> <p>おもな誤答例には、次のようなものがあげられる。</p> <p>1 税金を&lt;治・収・始&gt;める。</p> <p>2 小包が&lt;句・便・屈&gt;く。</p> <p>3 仕事を分&lt;旦・単&gt;する。</p> <p>4 &lt;間・関・果&gt;&lt;短・旦・探&gt;な式にまとめる。</p> <p>&lt;&gt;の中が誤答漢字だが、無答もかなり多かった。正答率は、1が59%、2が64%、3が64%、4が68%である。</p>	<p>。漢字は一度おぼえても、すぐ忘れてしまうので、繰り返し練習させることが必要であろう。また、日常生活で文章を書く場合など、既習の漢字をできるだけ活用して書かせることや、忘れてしまったものは調べて書かせるなどの態度の育成が大切である。特に、漢字そのものを暗記して覚えることよりも、言葉のつながりや文字の成り立ちから理解させることが重要であろう。</p>
<p>二、送り仮名を正しく書く</p> <p>1の「従う」に「が」をおくったもの。2の「済ます」に「ま」をおくらなかったものが目立つ。送り仮名のつけ方における間違いやすい例である。1では、例にある「述べる」にならって、観念的に「従がう」と送ってしまう傾向が見られた。正答率は、1が74%、2が64%である。</p>	<p>。漢字が書かれていて、ひらがなだけを送るという問題なので、漢字を書くという抵抗がなかったせいかな正答率が高かった。(74%) 漢字と送り仮名をいっしょに言葉として理解させていくようにしたい。</p>
<p>三、仮名遣いを正しく書く</p> <p>1 石につま<sup>㊦</sup>いてころんだ。<sup>㊧</sup>を記入したものが誤答の多くを占めている。</p> <p>2 きめたと<sup>㊨</sup>りにする。誤答のほとんどが<sup>㊩</sup>を記入している。1の正答率が30%なので、2の65%にくらべて大変低かった。</p>	<p>。仮名遣いは、いったん誤って覚えると、習慣化してしまい、なかなか直らない。問題文にあるような「ズ」「ジ」や、オ列長音には特に配慮したい。</p> <p>個別指導で徹底することが大切であろう。</p>
<p>観点②（文字を書く）について</p> <p>漢字を書くことは比較的好くできている。(平均正答率61%)、なお、同音異義・点画のみだれ、偏やつくりの違いなどにおいて、さまざまな問題点がみられたので、繰り返し練習させ</p>	